

令和6年度 社会福祉法人 協愛福祉会 施設自己評価表

(保育理念)

Happy+Natural
Happy+challenge

(保育目標)

げんきな子 やさしい子
がんばる子 ゆたかな子

A：よくできている

B：わりとできている

C：一部改善が必要

D：改善しなければならない

	内容	前年評価	今年評価	現状・課題
保育目標について	(1)保育士一人一人が、協愛福祉会の保育理念、保育目標を理解している	B	B	それぞれが保育理念、保育目標を理解し保育を行った。今年度は、クレドの理解、浸透にも取り組んだ。毎月、各クラスでクレドに対するエピソードを語り合うことで少しずつではあるが理解、浸透につながっていると思う。 子どもたちの想いや願いを受け止め、子どもたち一人ひとりが自分らしく安心して生活できるように配慮した。
	(2)子ども一人一人の主体性を大切にされた保育をしている	B	B	
	(3)すべての子どもについて一人一人の存在と、その人種を尊重している	A	A	
保育について	(1)保育計画に基づき、子ども一人一人の発達の姿や興味を把握して、年間計画、月のカリキュラム、週案を立てている	A	A	今以上に子どもたちが楽しくワクワク遊べる保育環境を構築するため、中央ヴィラこども園と風光るゆめの森の視察研修を実施した。事前に自園の課題を共有し、何が必要で何が足りないのかなど、一人ひとりが目的や目標を持って視察を行ったことで、多くの学びと刺激を受けた。視察後は、各クラスの保育環境に変化があった。ランチルームについても食事以外の時間も活動のスペースとして活用している。 これまでの流れや固定概念、安全面を配慮しすぎるあまり、職員目線や職員都合の保育になってしまうことがあった。常にこども真ん中、子どもが中心であることを意識し保育をしていく。 素材・用具は適切に使用しているが、管理や物を大切に使うという意識が低く感じる。
	(2)3歳未満児は、現在の姿を理解し、一人一人に保育計画を立てている	A	A	
	(3)素材・用具を適切に使用している	B	B	
	(4)環境の構成を意識した保育や過程を常に工夫している	B	B	
	(5)職員間で子どもへの理解を深め、お互いの考えを十分に理解したうえで、保育を行っている	A	A	
	(6)1日の流れ(デイリープログラム等)は現行でよい	B	A	
食育について	(1)食育の重要性を理解し、季節や年齢に合わせて食育計画を立てている	A	A	野菜の栽培や収穫、クッキングなどを通して食の大切さが学べている。 給食検討会では栄養士、保育士が積極的に意見を交換し、より良い給食の提供に繋がっている。 アレルギーに関しては、保護者と連携を取りながら個別に対応している。
	(2)栄養士、保育士が連携し、会議等で意見を交わしながらより良い給食になるよう努めている	A	A	
	(3)アレルギー疾患等の子どもに対し医師の指導の下、保護者との連携を図り適切な対応を行っている	A	A	
役割研割員構成	(1)職員の仕事や役割が明確であり、それぞれの仕事を責任を持って行っている	B	B	それぞれ役割や役割を理解し業務を行った。 大きな揺れを感じる地震があったため、再度、緊急時の対応について確認を行った。その際、緊急時の引き渡しリストがなかったため作成した。
	(2)危機管理意識を持ち、緊急時に対応できる体制が整えられている	A	A	
	(3)園内外の研修は計画を立て実行している	A	A	

		前年評価	今年評価	現状・課題
保護者支援・情報	(1)保護者に対して、丁寧な言葉遣いと、気持ちの良い対応を心掛けている	A	A	保護者対応時には、保護者の想いに寄り添い、分かりやすく、適切な表現や言葉遣いを心がけた。 お迎えの際には、その日の様子を分かりやすく丁寧に伝え、日々の成長を共有している。 年度初めの保護者交流会は好評であるため継続して行っていきたい。 文書、記録、写真などの個人情報の管理は適切に行えている。
	(2)保護者に子どもの伸びているところや課題を伝え、連携をとっている	A	A	
	(3)様々な園行事を通して保護者との良好な関係を築こうとしている	A	A	
	(4)園だより、ドキュメンテーション、きっずノート、ホームページ等を通して、保育内容や子どもの姿や保護者への情報を発信している	B	B	
	(5)子どもの個人記録は、個人情報保護法に基づいて管理している	A	A	
	(6)職員に、園内で知り得た事柄に対しての守秘義務を周知徹底している	A	A	

開かれた 保育園	(1)小学校と連携し、情報交換をする機会を待つ	B	B	以前より小学校との連携は減っている。子どもたちが楽しみをもって小学校へと繋がるように、園からも何らかの働きかけや取り組みが必要だと感じる。
	(2)気になる子どもの対応について、外部の専門機関と連携をとりながら対応している	B	B	

子育て支援	(1)地域で子育てをしている親子の交流の場となるように努めている	B	B	法人で取り組んでいる子育て支援に参加している。親子の交流の場となっている。在園児に関しては、送迎時だけではなく、いつでも子育て等に関する相談は受け付けている。
	(2)子どもの心身の発達や育児不安について気軽に相談できるように努めている	A	A	
	(3)園生活の子どもの様子を地域にも発信している	B	B	

総合的な現状と課題

<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの興味や関心、チャレンジしたい気持ちに寄り添いながら保育を進める中で、これまでの流れや固定概念、安全面に配慮しすぎ、職員目線の保育になることがあった。保育環境に関しても、子どもの興味は変わっているのに保育環境、コーナー保育に変化がないこともあった。遊びや様々な経験を通して学びを深め成長していく子どもたちのために、職員が制限や限界を決めず、常に子どもたちの想いに寄り添いながら子ども目線の保育、行事とし、子どもたちが日々楽しくワクワクする保育を展開していきたい。 保育中に大きな揺れを感じる地震があった。定期的に避難訓練を実施しているが、実際に大きな揺れを感じる中での避難対応、行動には困難さもあった。南海トラフ地震のこともあるため、防災に関する意識や知識、緊急時の対応や行動など、あらゆる状況を想定し、小さな子どもたちの命を守るため訓練や防災への備えを行っていきたい。 次年度より幼保連携型認定こども園「ひがしこども園」へ移行する。今後も保育の質の向上に努め、これまで以上に地域に愛されるひがしこども園を目指していきたいと思う。
--

園名 ひがし保育園 氏名 川村 隆晶